

# 1 令和元年度の取組

## (1) 業務連絡会の実施状況

### ア 第1回の実施状況について

開催日時 場所	内容	参加状況
令和元年7月20日(土) 14:00~16:30 くれよん 2階フロア	○医療的ケア児の訪問看護の実際 (実技研修:モデル人形を使った人工呼吸器装着児の沐浴練習等、意見交換) 訪問看護ステーションくれよん スタッフ	14名 11事業所

### イ 実施後アンケート結果

設 問	回 答
小児看護の経験	あり 11名 / なし 3名
小児の訪問看護の経験の必要性について	必要だと思う 10名 / 思わない 3名 / 無回答 1名
実践による印象の変化と理由	変わった 13名 / 変わらない 0名 <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例でイメージがついた</li> <li>・全く小児に関わったことがないが、ケアの実際を知れ良い経験になった</li> <li>・小児はケアが難しいと思っていたが、成人と大きく違うと知ることができた</li> </ul>
今後、小児の訪問に関わりたいと思うか	思う 12名 / 思わない 1名 / 無回答 1名
講演会は役に立ったか	役に立った 14名 (100%) / 役に立たなかった 0名
今後希望する演習	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">・ケアの実際や工夫</li> <li style="width: 50%;">・呼吸器取り扱い</li> <li style="width: 50%;">・遊びをとおした支援</li> <li style="width: 50%;">・緊急時の対応</li> <li style="width: 50%;">・多職種連携の実際</li> <li style="width: 50%;">・家族への支援</li> </ul>



ウ 第2回の実施状況について

開催日時 場所	内容	参加状況
令和2年2月22日(土) 14:00~16:30 東村山市市民ステーション サンパルネ	○講演「今、小児の訪問看護に求められていること～小児医療的ケア児訪問看護の現状と課題」 訪問看護ステーションくれよん 管理者 吉澤 奈津実(看護師) ○情報交換 ・診療報酬(加算)について ・緊急時の対応について	13名7事業所

エ 実施後アンケート結果

設 問	回 答
これまでに連絡会に参加したことがあるか	初めて9名/以前にも参加したことがある2名/無回答3名
小児看護の経験	あり3名/なし6名/無回答5名
小児看護の経験は必要と思うか	思う6名/思わない3名/無回答5名
今後小児の訪問看護をしてみたいと思ったか	思う8名/思わない0名/どちらともいえない2名/無回答1名
学びたいことが学べたか	はい11名(78.6%)/無回答3名
小児の訪問看護に取り組む事業所を増やすためには、どうすれば良いと思うか	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験豊かなステーションで実習し、自信をもって関わられるような体制づくり</li> <li>・小児看護は苦手意識のある分野であると思う。小児に慣れたステーションと組み、第2ステーションとして関わり、助言を受け、少しずつ慣れる</li> <li>・小児訪問看護の経験があるスタッフが入社するのが一番早い</li> <li>・同行訪問に加え、困難なケースに関しての相談窓口があると良い</li> <li>・小児訪問看護が一般的に知られていない印象が強い</li> <li>・ステーション管理者の理解が一番重要だと思う</li> </ul>	

(2) 同行訪問を主とした実践的な現場体験研修

ア 実施状況について

参加事業所	6
実人員 (職種内訳)	11 (看護師10 ST1)
訪問延べ日数	11
訪問延べ件数	41

## イ 実施後の感想

同行訪問参加者から、以下の感想が得られた（感想文より抜粋し掲載）。

- ・訪問が必要な医療的ケア児は快、不快や思いを言葉で表現する事が難しく、そのような子どもたちの訴えをどのようにくみ取っていくかが重要だと感じた。
- ・その子の病態やそれに伴った医療的ケア、内服薬、栄養摂取、発達段階などいろいろな側面から現状をアセスメントし、判断していくことが必要だと感じた。
- ・てんかん発作が内服でもなかなか安定しない児や、息止めをする児など予測していても予想外の状態変化も起きやすく迅速な判断や対応が必要になるのだと思いました
- ・児の一番のキーパーソンである母は、児に関わる必要な技術を習得していなければならず、児の兄弟がいる場合も多いので母の負担が一番大きいことを実感した。
- ・母の負担が減らせるようレスパイト入院の相談や、長時間の訪問利用を望む場合もヘルパー利用と合わせてなるべく長時間利用できるよう調整する必要があると学んだ。
- ・子どもの体の成長に合わせて入浴の物品、移動方法、ケアに必要な人数を変化させ、変化する際は半年前から家族への説明等準備をはじめていることを学んだ。
- ・大変な時期は多々存在するとは思いますが、優しい空間を共有するための援助ができる小児訪問看護はとても魅力的だと感じました。
- ・何よりも出会った子供たちが皆可愛く、私のマイナスイメージは消えてしまいました。

### (3) 事業所運営相談の実施状況

件数	時期	職種	内容
1件	令和元年11月	訪問看護師	○通学手段、入浴方法

### (4) 新規参入事業者の掘り起こし

業務連絡会、事業所運営相談、同行訪問等実施時に働きかけを行った。

### (5) ホームページによる普及啓発

同行訪問等の研修に参加した看護師の感想文や業務連絡会についてのお知らせを「くれよん」のホームページに随時、掲載した。